

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	半年毎に部門目標をあげて、毎年度理念や目標への取組みを見直している。	現状以上に近所の方に親しまれ、地域に根ざしたホームにしていきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	『ゆっくり・楽しく・一緒に・豊かに』の理念をいつも頭におき、ケアがそうであるか照らし合わせながら日々活動している。	ミーティングやカンファレンス等でも話し合い、熱意を持ってより良いサービスの提供に努める。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	ご家族には、法人冊子を配布する等取り組んでいるが、地域に対しては十分でない。	地域の方々に対しても働きかけを行い、もっとホームの事を知ってもらうようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	散歩などで近隣の方々と言葉を交わす機会はあるが、日常的な付き合いまでにはなっていない。	もっと地域に開かれたホームになるよう努めていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	町内会の行事には参加できるよう努めており、又、緊急時には手助けして頂けるよう働きかけている。	今後も出来るだけ参加し交流の機会を増やしていきたい。
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域の高齢者のために何かに取り組むという機会は持っていない。	地域とのかわりを意識した取組みを考えて実践していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングやカンファレンス等で評価を確認し、改善点を話し合っサービスの上 に努めている。</p>	<p>継続していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている。</p>	<p>会議への参加をご家族の方へも呼びかけるが、ほとんど参加されず経過している。</p>	<p>推進会議に多くの人に参加していただけるように、工夫していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会を作り、市町村と ともにサービスの質の向上に取り組んで いる。</p>	<p>事業所の実績・取組みについて報告している。</p>	<p>今後も継続し、市町村との連携を深めていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要 人にはそれらを活用できるよう支援して いる。</p>	<p>研修以外で学ぶ機会はない状況となっている。現在、活用する対象の人はおらず、 活用していない。</p>	<p>スタッフ全員が制度を理解できるよう学ぶ機会を増やす事が必要。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連 法について学ぶ機会を持ち、利用者の自 宅や事業所内で虐待が見過ごされることが ないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>利用者に対するケアをカンファレンスで確認し、問題点を見直しており、虐待防止に 努めている。</p>	<p>勉強会等で学びながら、専門職としての自覚を持ち虐待防止を徹底して いく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者 や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説 明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>理解・納得が得られるよう、ご家族に十分な説明をし文書にて了承を得ている。契約 に基づいており、決定過程が明確であり、納得のいく支援と体制がある。</p>	<p>今後も、理解・納得できるよう説明し、了承を得た事は文書に記する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満・苦情があった場合は、内容により検討・対応している。		継続していきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族と連携をとっており、定期的にご本人の様子を報告したり通信でホームでの生活をお知らせしている。金銭管理では、定期的に出納を明らかにし年末に1年分の領収書をお渡ししている。		継続していきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	機会があるごとに窓口を伝えており、意見箱も設置している。		ご家族を交えたケースカンファレンス等を行い、意見が反映されやすい環境を作っていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングやカンファレンスにてホームの運営やケアについて話し合っている。		職員間での話し合いを充実させ、更なるサービスの向上に努めていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スムーズに生活を支援して行けるよう、工夫して勤務ローテーションを組んでいる。		柔軟な対応が出来る勤務体制が取れるよう人員に余裕を持ちたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係の重要性を理解しながらも退職等で職員の出入りは度々ある状態。利用者にダメージにならないよう異動や離職の情報は伝えない等の配慮を行っている。		現状で出来るだけ馴染みの関係を大切にしていって対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>勉強会等の情報を提供し、参加を勧めている。外部からの講師の勉強会等も積極的に行っている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>連絡会・会議等に積極的に参加し、ネットワーク作りや情報交換を行っている。</p>	<p>継続していく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、常時職員の相談を受ける体制をとり、ストレス軽減に役立っている。</p>	<p>継続していく。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職能評価し、職員の資格取得に対して支援している。</p>	<p>上層部が現状を正確に把握し、スタッフの努力や実績をもっと認めてくれる体制に変わって欲しい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面接で本人を訪ね、生活状況やニーズについて情報収集し信頼関係を築く努力をしている。</p>	<p>現在の状況を継続していく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族との面談に十分な時間を取り、不安や希望を聴く努力をしている。</p>	<p>現在の状況を継続していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人や家族との話し合いを重ね、ケアの方向性を検討している。又、色々な状況によるサービスも案内している。		利用者がより良いサービスを受けられるよう継続していく。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族には事前に施設見学していただき、本人の生活スタイル等の情報収集を行い、自然な雰囲気でご馴染んで頂けるようにしている。		入居後、ご家族の面会を多くして頂けるよう働きかけたり、ご本人に関する情報収集に努め、意向に合わせて情報を修正する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	寄り添い、想いを共感する事で、支えあう関係を築けるよう努めている。		親身に寄り添い、更に良い関係を築けるよう努める。
28 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族来訪時には、情報交換を行い、家族と協力しながらご本人の希望が叶うよう努めている。		ご家族と情報交換を行い、色々な感情を共有し家族と共に利用者を支えていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人の生活歴等を情報提供していただき、又、ご本人の様子もお伝えしている。 誕生会・行事への参加を募ったり、外泊や外出の機会を作っていただくことを勧めている。		継続していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族と相談しながら可能な面で支援している。		途切れがちなご家族もいるため、積極的に関わっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常に利用者の情報を職員が共有し、利用者同士が良好な関係を保てるよう見守り関わっている。		継続していく。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用終了後も、必要に応じて訪問したり連絡をとっている。		今後も継続していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の様子や会話から、本人の意向を読み取る努力をしている。又、必要に応じてご家族と相談し、本人本位に検討している。		スタッフ本位にならないよう「入居者本位」を尊重したい。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の一部を活用しながら、ご家族や本人からの情報収集に努めている。		継続していく。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常時、様子観察を行い、申し送り・カンファレンス等で情報を共有している。		継続していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族の意向を確認し、スタッフ同士定期的に話し合い、一人ひとりにあった介護計画を作成している。		継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3～6ヶ月ごとに見直しを行っている。期間以外にも変化があった場合は、都度話し合い、状態に合わせてケアプランの変更を行っている。		継続していく。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活の様子や変化・特変事項は記録に残し、カンファレンスや申し送りで話し合い、計画の見直しを行っている。		継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内の送迎車を利用したり、状況に合わせた対応を行っている。		継続していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会行事への参加・講習会や査察を通して、消防署との関わり等を行っている。		ボランティア導入・地域資源の活用は、今後の課題として検討する。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	同一建物内の事業所(保育所)との合同行事を計画したり、行き来できるよう努めている。		本人の意向に応じ、現状以上に支援していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	特に動いていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回訪問診察を受け、かかりつけ医と相談しながら健康管理を行っている。又、医療機関を受診する場合には、必ずご家族が職員が同行し、文書だけでなく口頭でも情報を伝達している。		継続していく。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的に訪問診察を受けている。		認知症に詳しく、気軽に相談できる医師を身近に見つけたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職があり、小さな変化も相談し対応している。		継続していく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者との情報交換は常に行っており、受け入れに向けて必要な指導を受ける等、連携は取れている。		継続し利用者を支えていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	情報は常に共有しているが、現在のところ細かい方針については決まっていない。		個々のケースについて、より細かな方針の取り決めが必要。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	チームとして情報を共有し、出来る限りの事には取り組んでいる。今後の変化に備え、検討は行っているが十分ではない。		今後の変化に備えた準備を行う事が必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替え時には、添書に知り得た情報や想いを全て記入し渡している。		今後も継続していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	声の掛け方・記録物の扱い等、留意しているが不十分な事もある。		各々が注意しあい、適切な声掛け・記録の管理が行えるよう徹底していく。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	できるだけ同意・納得し自己決定できるよう個別に対応している。		今後も本人の思いに沿って自己決定できるよう、解りやすい言葉で対応していく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者のペースに合わせて生活して頂けるよう努めているが、職員の人数・行事等で業務優先になってしまう事がある。		個々の希望やペースで過ごしていただける様、ゆとりを持って接して行く。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望により、家族に対応して頂いている。対応できない方には、訪問美容を依頼している。		その人らしいおしゃれを今後も支援していきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みの献立を一緒に考えたり、米とぎ・皮むき・大根おろし等簡単な作業を出来る範囲で行って頂いている。片付け・食器拭きは主に入居者の役割になっている。		継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒・喫煙をする入居者はいない。おやつ・飲み物については、本人の健康状態に合わせて提供し、満足していただけるよう支援している。		今後、喫煙・飲酒をする方が入居した場合は、対応を検討する。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々のパターンを把握し、誘導等で失敗を減らし自信喪失につながらないように対応している。		デリケートな問題である為、対応は継続し徹底していきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	安全確保のため職員の人数が多い時間帯での入浴を行っている。状況にもよるが、なるべく希望に沿って入浴して頂いている。		継続していく。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者一人ひとりの状況に合わせて休んでいただけるよう支援している。不穏な状態の時には、付き添ったり見守りを行い安心できるよう対応している。		継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事作業・体操・唄・手作業等、個々が好む事や力を発揮できる事を提供し行っている。家事作業については、利用者の中で自然と役割分担もされている。		継続して対応していく。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者が管理しているケースは少数であり、ほとんどがスタッフ管理となっている。		買い物・外出等の機会を設け、お金を扱う機会を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	現在は日常の散歩(冬季は除く)以外での外出の機会は少なくなっているが、スタッフの人数に余裕がある時に外食やお茶を飲みに行く等の事は行っている。介護度の高度化・スタッフの人数の確保が出来ない事から、一人ひとりの希望に合わせた外出は困難な状態。		個別に小さな希望でも取り入れた外出が出来るよう努力していきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	可能な場合、ドライブ・買い物等に数人で出掛けるようにしているが、一人ひとりの希望に添った外出は出来ていない状態。		買い物・外食等、個々の希望に沿って対応できるよう取り組んでいきたい。ご家族への提案も行っていきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	こちらから電話をかける機会は少ないが、希望に合わせて使用して頂いている。手紙については、本人が書くことが困難な場合が多く行っていないのが現状。		出来る人には、もっと機会を増やし、希望を満たせるよう対応していきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの方が、いつでも訪問できるよう職員一同が対応し、温かい雰囲気作りに努めている。		更に良好な関係を築いていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、極力行わないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合にのみにおいて、ご家族の了承の下実施している。		カンファレンスごとに拘束しない為にどうしたら良いか話し合っている。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間、やむを得ない場合においてのみ施錠する事があるが、基本的には鍵をかけないケアに取り組んでいる。		継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者のストレスにならないよう配慮しながら所在確認・様子観察を行っている。		継続していく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個人で管理できる入居者には任せているが、管理できない利用者にはご家族の協力も得て危険がないよう努めている。		ご家族の力を借りながら対応を継続していく。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者個々の状態を考慮し予想される事故を未然に防ぐ事が出来るような様子観察しケアに取り組んでいる。		継続していく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	1回/年、救急についての勉強会を実施している。又、症状別マニュアルを作成している。		法人内の医療機関による勉強会が定期的に行われている。内容の十分でないものについては、今後の勉強会で行い訓練機会を増やしていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	スタッフ間での避難訓練は定期的に行っている。町内会を通して地域住民への緊急時の救助の呼びかけは行っているが、訓練する所までは達していない。		今後、地域住民も交えた訓練も行っていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	毎月カンファレンスを行い、今後の改善につながるようにしている。ご家族には、来訪時に状況・リスクを説明し、理解・同意を得ている。		継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日定時のバイタル測定を実施。日常の様子の変化に注意し記録に残すようにする。変化時は家族に連絡・報告している。		継続していく。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方内容がわかるファイルがあり共有している。処方変更後の変化等見逃さないよう経過観察を行っている。		継続していく。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事内容・水分摂取量への気配り。日中は座ったままでも出来る体操等、運動も心がけている。		冬期は運動量が減少してしまうため、室内で出来る運動に力を入れて行きたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床・食後・就寝前の口腔ケア・義歯洗浄を習慣付けている。		継続していく。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスの取れた献立作りを心がけている。食事・水分量も記録に残すようにしている。定期的に法人内の栄養士の評価も受けている。		継続していく。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は全員が受けるようにしている。手洗い・うがいにも心がけ、来訪者にも協力して頂いている。2回/日は手すりの消毒も行っている。定期的な勉強会・感染マニュアルを作成し周知している。		継続していく。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な食材の使用、調理用具の消毒を徹底する。		現状以上に徹底していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>玄関周りの清掃。玄関先・周りに花を植え、雰囲気作りを行っている。</p>		継続していく。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>季節に応じたフロアの装飾等、工夫している。生花・観葉植物も楽しめるように用意している。</p>		継続していく。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>ソファ・椅子があり、和やかに談笑したり、テレビ・音楽を楽しめている。スペースが無く、一人になれる場所の確保は不十分になっている。</p>		利用者が快適に過ごせるように、出来る限りの配慮をしていきたい。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>入居者個人の使い慣れた生活用品を持ち込んで頂き、なるべく自宅に近い雰囲気でも過ごしていただきたいが、介護度の重度化で介護ベッド・車椅子等を使用される方も増えており、『自宅』という雰囲気からかけ離れている方もいる。</p>		出来る範囲内で快適な環境を作れるよう配慮したい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>各居室に温度計・湿度計が設置されている。フロア内も換気や湿度調整等配慮している。</p>		継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	廊下・トイレ・浴室等、各場所に手すりを設置しているが、不十分であると思われる。	ハード面だけでなく、見守りや介助で事故を防げるように現状以上に努めていきたい。
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	各居室に表札をかけたたり、場所がきちんと解るように目印をつけている。日付が解るように日めくりのカレンダーがある。解らなくなった時・混乱している時には、スタッフが仲介し対応している。	継続していく。
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	草花を植え、水をあげたり楽しんでいる。	継続していく。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)